

おすすめ本

正しいパンツのたたみ方
—新しい家庭科勉強法—
南野忠晴著,岩波書店,2011年

590
ミ(児)

家庭科教員の著者による中・高校生向け自立のススメ。性別にかかわらず、真の「生活力」を身につけることが、生きることを楽しむことにつながるという。生活・こころ・経済・性など多様な視点から、実生活の場面に照らして明快にアドバイスしている。社会のなかで、支配や依存でない関係性で他者と支えあって生きていく力を身につけることが大切であると。彷徨える中高年男性にもぜひ読んでほしい一冊である。



女、一生の働き方
貧乏ばあさんから働くハッピーばあさんへ
樋口恵子著,海竜社,2010年

366.3
ヒ

ライフサイクルによって働き方を変えたり、パート職での社会参画は、経済的自立の機会を阻み、それは社会保障の面で老後の暮らしに大きく影響する。経済力を持つことは生きること。ひとりひとりが、自分の人生と労働をあわせて将来を見据えること、そして、人生後半の就労システムの確立が必要と著者はいう。高齢期を迎えた女性たちの声は、世代を超えて働き方の参考になる。



笑顔を取り戻した女たち
マイノリティー女性たちのDV被害
—在日外国人・部落・障害—
(社)東京自治研究センター・DV研究会編,
パド・ウィメンズ・オフィス,2007年

367.1
ト

2001年のDV防止法制定以降「夫婦間の暴力は犯罪だ」という認識が広まった。支援体制も整いつつあるが、被害女性に向けられるメッセージは「まず助けを求めて!」というもの。しかし、マイノリティー(社会的少数者)女性たちは、「助けて!」と簡単には声を出せない状況にいる。彼女たちの声が聞こえないのは、問題がないからではない。私たちがその声を聴こうとしていないからだ。



気になる数字

日本は94位

世界経済フォーラム「The Global Gender Gap Report 2010」が独自で算定した各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数(Gender Gap Index:GGI)で、日本は134カ国中94位と、先進国の中では最低レベルである。この指数は、経済、教育、政治及び保健の各分野のデータから作成される。国際的に見て、特に政治分野では国会議員、経済分野では管理職などの女性割合が少なく男女格差が大きい。日本は総合順位が低くなっている。先進国と呼ばれ、また男女共同参画推進を21世紀の最重要課題に位置づける国として、男女平等度がこの結果とは由々しき事態ではないか。次に挙げる成果目標を達成したとき、この国はどうなっているだろう。ひとりひとりが意識を高め、その時を迎えたい。

2020年30%

あらゆる分野で男女平等とは言えないのが、今の日本。この状況を変えるには、何らかの策が必要になる。その1つが、ポジティブ・アクション(積極的改善措置)。日本政府は「2020年までに、指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度に」という目標を掲げ、この具体策を進めようとしている。なぜ、30%なのか?大集団に対して小集団の影響力が生じる割合は、30%が分岐点だと言われている。30%を越せば、指導的地位に女性が就くことが、当たり前のこととして社会に受け入れられるだろう。それは、単純な数値の変化ではない。社会の様々な変化を伴った結果が、その数値なのだ。現状を見れば、そう簡単に実現するとは思えない。しかし、あきらめてしまえば希望も途絶える。どんなに困難でも、努力し続けること。数値目標を自ら掲げた日本は、世界からその本気度を試されている。

わたしたちの
アクション・プラン

男女共同参画社会を実現させることは

誰にとっても身近な課題なのに、なぜ進まないのか。

みなさんに向き合ってみてほしくて、『第3次男女共同参画基本計画*』において新設された重点分野に沿って、比較的読みやすい本や知ってほしい事が書いてある本を集めてみました。

男女共同参画社会に向けて

*男女共同参画社会基本法制定から10年を経て、2010年12月17日に第3次男女共同参画基本計画が閣議決定された。第2次の42項目の2倍近い82項目(延べ109項目)の「成果目標」を設定し、2020年までを見通した長期的な政策の方向性と、2015年度末までに実施する具体的な施策を記述。数値を明確化したことで、国の真摯さがうかがえる。

おすすめDVD

昭和を切り拓いたろう女性からあなたへ DVD・教育 160
撮影・編集/今村 彩子,2011年,日本,60分



共に生きる社会の実現に向けて、20~40代のろう・難聴女性たちが立ち上がった。Lifestyles of Deaf Womenの活動は2006年から始まった。仕事、結婚、出産、育児という人生の転機における自らの体験や課題を発信し、ライフスタイルを提案することをコンセプトにメールマガジンや講演活動を行っている。PTA会長になった体験談、家庭と仕事を両立している姿は生きづらさを感じている女性にとってエンパワメントになる。

©2011Lifestyles of Deaf Women/Studio AYA

サイエンスに挑む女性像

「女性研究者マルチキャリアパス支援モデル」プロジェクト編、アドスリー,2009年

407
ニ

女子大学としては数少ない理学部を持つ日本女子大学の女性研究者支援についてまとめた本。出産・育児などで研究を断念することのないよう、病児保育やテレビ会議システムなど多彩な両立支援策を導入、柔軟で多様な生き方への対応や、活躍の場の拡大をめざす取り組みも示す。ロールモデルたちの生の声やデータも豊富に収録されている。就業とのマッチングという課題が見えてきたものの、日本における女性の理系参画を世界水準に近づける道標となる内容である。



小千谷(おぢや)から
新潟県中越地震から2年半
被災地で暮らす主婦の記録
おぢやのおぢママ著,アスペクト,2007年



369
オ

中越地震の被災地、小千谷市に住む女性の被災日記。「トイレ問題や子どものPTSDと夫の育児非協力」「炊き出しや自衛隊のお風呂への感謝」「避難所や仮設住宅の問題点」「豪雪と行政への不満」「マスコミやボランティアの在り方」などについてブログで発信。そのネットワークを通じ被災地支援者との輪が広がり、復興に向けたイベントに企画の段階から参加するようになる。地震にどう備え、被災者となった時どう生きるかを考えさせてくれる。